2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

### あいち朝日遺跡ミュージアム



300円 個人 200円 250円 150円

●愛知県清須市朝日貝塚1番地 ●TEL / 052-409-1467

●開館時間/9:30~17:00 ●駐車場/15台

●休館日/月曜日(祝休日の場合は翌平日) 及び年末年始(12/28~1/3)



清洲城

【大人】 300円 小人150円

●TEL / 052-409-7330 ●開館時間/9:00~16:30

●休館日/月曜日

<sup>ミュージアム</sup> 共**通チケット** 清洲城 共**通チケット** 

2施設で計600円を 500 円 発券より半年間有効













【一般】 200円 ※中学生以下無料

●名古屋市守山区大字上志段味字前山1367 ●TEL/052-739-0520 ●開館時間/9:00~17:00

●休館日/月曜日 ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日



共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。



名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から約1分 清洲公園駐車場もご利用いただけます。 駐車場の数には限りがあります。出来る限り公共交通機関のご利用をおすすめします。







あいち朝日遺跡ミュージアムの今を伝える情報誌【季刊誌】

2023年9月

# 朝日遺跡だより

振り返りレポート/

企画展「弥生人といきもの2023 魚をとろう!」

弥生ムラづくりプロジェクトレポート

シリーズ/ミュージアム収蔵品ファイル

アカとクロがレポートするミュージアムの見所

連載/ミュージアムスタッフのこぼれ話

ショップグッズ紹介

古代体験プログラムのお知らせ

6月~8月のできごと

企画展「弥生農耕ことはじめ-出土した農具から探る-」





企画展 振り返り レポート

## 企画展 弥生人といきもの 角をとろう!

期間 2023年7月22日(土)~9月18日(月・祝) 場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

### 今回のテーマは「魚」

本展は恒例の夏休み期間の子ども向け展示として企画しました。いきものと弥生人の関わり方という視点から、弥生時代について紹介する展示の第3回目です。

今回のテーマのいきものは「魚」です。 今でこそ朝日遺跡の周囲は住宅街で、海は16kmも南に離れていますが、弥生時代の海岸線は今よりもずっと内陸に入り込んでおり、朝日遺跡は川の河口と海のすぐそばにある集落でした。そのため魚介類の漁が盛んに行われ、第1回目のテーマ「貝」でも取り上げたように、弥生時代の集落としては珍しく大規模な貝塚が形成されました。貝塚の中からは多くの魚の骨や漁労具も出土しており、弥生時代から様々な漁が行われていたことがわかっています。

#### 弥生人と 魚の関わり

本展では、これらの朝日遺跡から出土した魚の骨や漁労具に加え、日本各地で出土した漁労具や祭祀具を「魚をとろう!」「魚から何がわかる?」「大物にいどむ!」の3つのコーナーに分けて展示することで、水上活動の側面における弥生人の技術力や行動範囲、水田耕作と淡水魚との関わり、海への信仰などについて紹介しました。

これらの展示資料をご覧いただくと、 弥生時代の漁の延長線上に現代の漁業 があることがお分かりいただけると思い ます。今回ご紹介した漁労具は、銛・ヤ ス・釣針・網・タコ壺などですが、使用頻 度や素材、形に多少の違いはあるとはい え、いずれも現代の漁業でも使われてい る道具です。

#### 魚の骨から 読みとれること

そして、遺跡から出土した魚骨からも 興味深いことがわかります。朝日遺跡の 場合、海水魚ではクロダイ・スズキ・イワ シなど、淡水魚ではコイ・フナ・ナマズな どが多く出土しています。これらの魚の うち、海水魚は現在の愛知県の漁業で も主要な漁獲対象となっている魚です。 つまり、集落近くの沿岸部で漁をしてい たことが伺えます。同様の傾向は他の沿 岸部の集落遺跡でもみられ、大阪府の 池上曽根遺跡ではタイ・フグ・タコとい う、現在の大阪グルメにも欠かせない魚 介類の漁が盛んに行われていました。

一方、コイ・フナ・ナマズなどは、水田 やその周囲の水路などにすむことも多い 魚です。つまり弥生時代になり水田耕作をするようになったからこそ、弥生人に とって最も身近な存在となった魚たちでした。朝日遺跡でもこれら淡水魚の骨の

出土量の方が海水魚のそれを上回っていることから、やはり水田耕作が人々の生活の基盤であったことが伺えます。

### 技術の伝播と 海への祈り

こうした漁の技術の多くは狩猟採集の社会であった縄文時代から受け継がれ、また発祥の地から各地へと広まっていったものです。大量の物資を遠隔地に運ぶ手段が船であった時代、交易の場では漁の道具や知識についてのやりとりも行われていたのでしょう。島根県の西川津遺跡で出土した弥生時代最大級の結合式釣針は、縄文時代に西北九州で使われていた釣針の影響を受けており、稲作技術と共に山陰に伝わったものと考えられています。日本海側の弥生集落では、このような大型の道具を使ってのサメヤマグロなど大型魚の漁が盛んに行

われていました。

もちろん、大型魚漁はエモノが大きい代わりに危険も伴います。そのためか、鳥取県の青谷上寺地遺跡をはじめ日本海側の集落では、サメを描いた道具が何点も出土しています。サメの力強さと恐ろしさを知る人々が、その力にあやかって海の恵みと安全を祈るため、琴などの祭祀具にサメの絵を描いたのだと考えられています。おそらくはその延長線上



結合式約針:西川津遺跡(島根県教育庁埋蔵文化財調査センター)

に「因幡のシロウサギ」のような、サメが 登場する神話があるのでしょう。

米作りを始めた弥生時代の人々と魚との関係、そこには和食の主食と副菜という関係に限らない、様々な弥生時代の社会の側面があることを、本展で感じていただけたのではないでしょうか。

(田中 恵美)



企画展ポスター

### 弥生レラづくリプロジェクト レポート

体験水田での稲作をとおして古代米の田植えから石包丁を使った稲刈りまで 弥生体験を実施しています。



### 田植え

2023年 6月3日(土)

弥生ムラづくりプロジェクトのメインイベント「田植え」を 実施しました。前日の台風の影響により風が強かったもの の、当日は天候に恵まれ、絶好の田植え日和となりました。 水田の区画ごとに、アイチノカオリ、焼津、種子島の3種類 の稲を区別しながら植えていきました。貫頭衣(弥生時代 の服)を着た参加者の皆様は、泥まみれになりながらも楽 しそうに田植えに励んでいました。この後、稲がどう成長し

ていくか楽しみで すね!ミュージアム に来た際は、ぜひ 体験水田も覗い てみてください。



### いきもの観察会

<sup>2023年</sup> **7**月**29**日(土)

6月に田植えを行った体験水田とその周辺に棲息するいきものを採取する、「いきもの観察会」を実施しました。参加した子どもたちはムラ人の皆さんと一緒に、トンボやカエル、バッタなど多くのいきものを夢中になって採取しました。(とても小さなチビゲンゴロウを捕まえたのは驚きでした…!)採取後は、自分が捕まえたいきものが何か、どのよ

うな特徴があるかなどを熱田神宮営繕部林苑課の寺本 匡寛さんに教えてもらいました。また、外来種 (アメリカザリガニ) についてのお話もあり、生態系や環境を守ることについても学ぶこともできました。



2 3

### シリーズ ミュージアム収蔵品ファイル No.9

# 柄付銛 (えつきもり)

企画展「弥生人といきもの2023魚をと ろう!]でも紹介したように、朝日遺跡か らは様々な漁具が出土しています。そのな かで多いのは、銛、ヤスなど刺突漁に使わ れた道具です。しかし、漁具といっても、 道具の全体が遺っているわけではなく、ほ とんどの場合刺突部に使われた骨角製品 が単独で見つかります。今回紹介するの は、鹿角製の銛が木製の柄に装着された 状態で出土した、非常に珍しい資料です。

本資料は、銛と柄を含め約26cmありま す。銛は鹿角の角幹から剥ぎ取られた板 状の素材を加工して作られており、大きさ は長さ15.1cm・幅1.8cm・厚さ0.8cmで す。両側辺に4つずつ計8つのかえしが作 り出されています。柄の残存部分は、長さ 14.4cm・径は最大で1.4cm。中空になっ ている部分に銛の基部を差し込み、樹皮 を巻いて固定しています。柄の樹種はノリ ウツギとされています。柄の大半は失われ ていますが、本来は長い柄を手に持ち魚 に狙いを定め打ち込んだものと考えられ ます。

ところで、鳥取県の青谷上寺地遺跡で は、朝日遺跡と同じように柄に付けられた 状態の銛先 (青谷上寺地遺跡ではヤス先 と分類)が出土していますが、こちらは4 本の銛先を束ね一つの道具として使用し ていたことが分かっています。朝日遺跡の 場合も、同様に複数本を束ねて使われて いたのかもしれません。

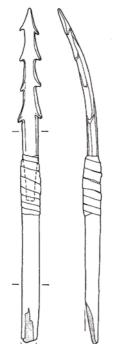




青谷上寺地遺跡の銛実測図 (鳥取県埋蔵文化財センター2001)



 $\bigcirc$ 





参考文献: 財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター 2001 『鳥取県教育文化財団調査報 告書72:青谷上寺地遺跡3』

タカとクロがレポートする

ミュージアムの見所 (屋外編その9) 貝殼山貝塚

今回も朝日遺跡に詳しい 学芸員の方に話を聞きました

今回のテーマは国史跡でもある 弥生時代初期の貝塚、貝殻山貝塚です。

#### 史跡の中には山になって盛り上がっているところが いくつかあるけれど…

「貝塚」といって、昔の人たちが貝を食 べたあとに捨てた殻が積み重なってでき た場所で、「貝殻山貝塚」といいます。数 回の発掘調査によって、現在のミュージア ムの敷地内には複数の貝塚が見つかって います。弥生文化が東海地方に定着して いった様子を明らかにする遺跡として、 1971年に貝塚を中心とした範囲が国の 史跡として指定されました。

国の史跡として保護されている大事な 場所なので、勝手に掘って穴をあけたり、 荒らしたりすることは禁止されています。



貝殼山貝塚全景



第3貝塚

### 貝殻山貝塚と朝日遺跡は同じ?

現在のミュージアムの復元環濠の貝 層付近から「中焼野貝塚」が、また、貝殻 山貝塚から少し離れていますが、北方に は「二反地貝塚」がありました。これらの 貝塚と貝殻山貝塚は、これまでそれぞれ 単独の貝塚と考えられていましたが、調 査が進み、実は1つの巨大な集落である

ことがわかってきました。ここが朝日遺 跡の始まりの場所であり、私たちに弥生 時代の暮らしを教えてくれています。

### 貝塚からは、何が見つかったの?

貝塚からは、カキ、ハマグリ、シジミな どの貝殻の他に、土器の破片や動物の 骨や角、また人の骨も見つかっていま す。交流館に展示してある2体の人骨は、 第3貝塚から見つかったものですよ。

2000年前くらいの朝日遺跡周辺は、

「清洲」という地名からも分かるよう に、海岸線が近かったようです。そのた め、ハマグリやカキのような海に生息す る貝や、汽水域に生息するシジミを昔の 人は、食べていたのでしょう。



第3貝塚から出土した人骨

### ミュージアムの見所を巡ってみよう!



### ミュージアムスタッフのこぼれ話

#### もう一つの朝日遺跡ジオラマ

みなさんは、あいち朝日遺跡ミュージアム の展示で一番印象に残っているのは何です か。基本展示室に広がっている大きな模型 「朝日遺跡ロケーションジオラマ」と答える 方も多いのでは。広大な集落のなかに、大 勢の人々の生活が精巧に再現されている様 子は、たしかに見応えがあります。

ところで、ミュージアムにはもう一つ集落の 模型があることを御存知ですか。ミュージア



まるまど貝塚の國朝日遺跡の模型

ムの別館「史跡貝殻山貝塚交流館」には、 「まるまど貝塚の國朝日遺跡」という模型 が展示されています。本館の模型と比べる とずいぶんと手作り感があふれています ね。それもそのはず、この模型は、一般参加 者を募集してワークショップの一環として 作ったものなのです。

ミュージアムの本格的な整備が始まる前 の2014(平成26)年、私たちは愛知県か ら委託を受けた特定非営利活動法人古代 邇波の里・文化遺産ネットワーク(通称ニワ 里ねっと)とともに朝日遺跡の普及啓発事

業に取り組 んでいまし た。このとき の事業の一 つがワーク ショップ 「朝 日遺跡模型



作業の様子

づくり」でした。計3回の講座には子供から 大人まで延べ50名近い人たちが参加し、手 作りで模型を作っていきました。集落の地形 は等高線ごとに積み上げたベースをつくり、 発掘調査成果である遺構図を反映して、環 濠や谷、墓などを掘り込んでいきました。竪 穴住居や倉庫も、粘土で一つ一つ手作りし ました。参加者みんなで試行錯誤して取り 組んだ朝日遺跡の模型は、その後旧貝殻 山貝塚資料館に展示され、現在も交流館の ガイダンス室で見ることができます。

ちなみに、同じ年に開催した「弥生たび」 という遺跡ツアーの企画で、朝日遺跡の案 内役として登場したのが、現在ミュージアム の公式キャラクターとなっている「アカとク 口」でした。このときの様々な取り組みは、新 設されたあいち朝日遺跡ミュージアムの展 示や事業のなかに活かされています。

(原田 幹)

# ショップグッズ紹介 【竪穴住居】



竪穴住居の模型とエノコログサ

竪穴住居(縮尺約1/40) ¥1.300(稅込)

弥生時代の住居は、地面に穴を掘り下げて 床にした竪穴式が一般的で、床面は方形(隅 を丸くしたトランプのような形)又は円形です。 朝日遺跡では、方形が多数を占めています が、何れも中央に炉があったと思われます。

紹介する商品は軸組だけの「スケルトンタイ プ」ですが、屋根に割箸などで横桟を入れて、 茅葺にしてみては如何でしょうか? 「茅」はス スキなど、少し大きくなるイネ科の植物の総称 なので、この模型だと同じイネ科の「エノコロ グサ」の茎でもよいかと思います。この雑草 は、「猫じゃらし」とも言われ、花穂が犬の尾に 似ていることから「犬っころ草」と呼ばれたの が語源ですが、穀物の「粟」の原種でもあるこ とから、プランターで大切に育てれば、小鳥の 餌にもなりそうです。

### 古代体験プログラムのお知らせ

会場:本館・体験学習室

10月 ミニチュア石包丁づくり スレート板を磨いて小さな石包丁を作ります。 ■時間/15:00~(45分)





※2023年10月1日(日)から12月24日(日)までの土・日・祝日に開催(各日1回) ※当日ミュージアム本館窓口にてお申込みください。(事前予約はできません) ※イベント開催日は、通常と異なるメニューを実施する場合があります。

#### 6月~8月のできごと

#### イベント

#### 「ナイトミュージアム」

●日時: 2023年8月19日(土) ●場所: あいち朝日遺跡ミュージアム

●内容:「ナイトミュージアム」を開催し、「屋外展 示のライトアップ」や「夜の史跡ツアー」 など夏の夜ならではイベントなどを行 いました。愛知県埋蔵文化財センター の「鋳込み体験」や歴史の里マイスター の会による[こだいぬりえ] 「古代しょく ぶつ標本づくり」など、いつもとは違っ た体験もあり、多くのお客様に夜の史 跡を楽しんでいただきました。





#### 講座ヒストリーカフェ

#### 「20世紀の石斧」

●講師:原田幹(当ミュージアム学芸員)

●日時: 2023年6月10日(土)

午後1時30分から午後2時30分まで ●場所:あいち朝日遺跡ミュージアム

本館•研修室

●内容:パプアニューギニアでは、20世紀前半 まで石の斧が使われていました。この石 斧には、実際に木を伐採・加工する作 業用の斧と儀礼用の斧があります。企 画展で展示する民族資料の石斧を考 古学的な視点から考え、紹介しました。



#### 講演会

#### 「骨の化学分析でわかった 朝日遺跡の弥生人の食生活|

●講師:米田穣氏(東京大学総合研究博物館教授)

●日時: 2023年8月11日 (金・祝) 午後1時30分から午後3時まで

●場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室

●内容: 水田稲作の伝来によって、弥生時代の社会は大きく変化したと考 えられていますが、実際に弥生人は米を主食にできたのでしょう か。骨に残存するタンパク質の同位体分析でわかった弥生時代の 食生活について紹介しました。



#### 「大人のための歴史講座 醸造の歴史を学ぼう ~ビールを中心とした醸造の歴史・文化~|

●講師:山本武司氏

(キリンビール株式会社横浜工場総務広報担当部長補佐)

●日時: 2023年8月20日(日)午後1時30分から午後3時まで

●場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室

●内容:麦などの素材に実際に触れながら醸造について理解を深めたり、 梅本元学芸員による「考古学からみた日本のお酒」といった解説 により、醸造という切り口から歴史についてお話を伺いました。



### 企画展「弥生農耕ことはじめー出土した農具から探るー」 開催のお知らせ

会期:2023年10月21日(土)~12月17日(日)

弥牛時代には、農耕が始まり、様々な農 具が普及していきました。収穫に用いられ た石包丁、脱穀や籾摺りに用いられた杵や 臼は、農耕とともに大陸からもたらされた 新しい道具でした。一方、大型石包丁のよ うに、その役割がはっきりと説明されてい ない道具もあり、現在も研究が進められて います。

今回の企画展では、九州から中部地方で 出土した、収穫・調製 (脱穀、籾摺りなど)

に用いられた農具を取り上げ、弥牛時代の 人々がどのようにコメを収穫し、どのよう に保管・加工していたのか、弥生時代の農 耕技術について考えます。





6